

世界遺産への道 第23回

市民の協力と 学術的調査が必須

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録活動は、着実に1歩ずつ歩んでいきます。今回は、市民組織の設立と学術調査を紹介。世界遺産登録に必要な市民の力と学術的証明の両輪が動き出しています。

■問い合わせ先
世界遺産登録推進室 ☎(36) 1372

市民組織を立ち上げ

アクシズ玄海で9月26日、市内23の団体が集まって「宗像・沖ノ島世界遺産市民の会」が発足しました。

設立記念イベントでは、市民参加型ミュージックが開かれました。



「むなかた三女神記」PR隊による舞台披露

市民の会では、「保存管理」「啓発・イベント・観光」をテーマに協議しています。また、市役所内にも関係各課による世界遺産推進組織を昨年4月に発足。市民の会と同じテーマで関係課によるワーキングを結成し、協議しています。



沖ノ島祭祀(さいし) 遺跡の発掘調査は、昭和29年、同33年、同46年の3次に渡って実施されましたが、3次調査すべてに参加した考古学者の小田富士雄さん(福岡大学名誉教授)が9月20日、40年ぶりに沖ノ島へ渡りました。

沖ノ島調査を振り返る

「啓発・イベント・観光ワーキング」では、本遺産を中心に市の魅力をさまざまな形で発信しています。

「保存管理」「啓発・イベント・観光」をテーマに協議しています。また、市役所内にも関係各課による世界遺産推進組織を昨年4月に発足。市民の会と同じテーマで関係課によるワーキングを結成し、協議しています。



講演する西谷さん

キング」では、世界遺産登録に必須な保存管理計画を検討。各資産の周辺に緩衝地帯を設け、景観破壊を防ぐ方法を考えています。例えば、宗像大社周辺の景観を維持するための方策や沖ノ島の聖性を維持するための方策などを協議していきま

す。さらに、今後の観光受け入れ態勢の課題なども協議していきます。

今後は、市民の会と意見交換しながら、真の市民協働で世界遺産登録の推進を図り、世界遺産を生かしたまちづくりを目指していきます。



裸をする参加者

また、韓国の祭祀遺跡と比較研究する韓国女性研究者の高慶秀(コ・ギンス)さんは、「沖ノ島は誰が見ても素晴らしい遺跡。女人禁制のため島に渡れないことは残念ですが、それを含めて文化だと思っ



沖津宮の御霊を御座船に乗船

ての価値を検証し、ユネスコ世界遺産センターへ提出する推薦書に反映させる調査研究が目的。各分野の研究者らが参加しました。

前日に大島へ渡り、沖津宮遺跡所近くの民宿で事前学習。國學院大学の柳田康雄教授は、福岡県職員として第3次調査時に天然記念物の監視役で参加した当時の話をしました。

「田心姫神(たごりひめのかみ)が早くお迎えくださった」。そんな気持ちになりました。

沖ノ島に到着すると「みあれ祭」の事前行事として、大島中津宮へ沖津宮の御霊(みたま)を運ぶ神迎えの神事があり、ちょうど田心姫神の御霊が、御座船に到着したところでした。

その後、全員で禊(みそぎ)をし、小田さんに当時の発掘調査を振り返りながら各遺跡の説明をしてもらいました。

調査当日、調査時の小雨も、沖ノ島に近づくと天気回復。



1号露天祭祀(さいし)遺跡を視察する小田さん(左端)

21面もの鏡が出土した17号遺跡の下で話をしてもらいました。鏡は、鉄刀や鉄剣、海から持ってきたと思われる丸い小石を使って水平に保ち、表面を上にして置かれていたそうです。

調査当初、鏡は明治期に持ち込まれたのではないかと意見もありましたが、調査を進めていくうちに、この遺跡によって、4世紀後半から沖ノ島で国家的祭祀がされていたことが結論づけられました。

この時期の遺跡は、2つの遺跡しかありませんが、そのうち5号遺跡が有名で、20号遺跡はあまり良くわかっていませんでした。

20号遺跡には、14号遺跡という番号も付いていました。最初は、L号岩の前面に土器が散布していたことから遺跡があることが分かり、14号としましたが、岩のすぐそばに繊維具の部品などが出土したため、20号と新たに番号を付したそうです。

この遺跡は、「別の場所」で祭祀をして、この場所にとめて置いた」とするなどの諸説がありましたが、実際は、露天の低い部分に石を置いて祭壇状の区画を作り、そこで何回も祭祀がされたことが確認されました。

このように、40年前の発掘調査の記憶をたどりながら、沖ノ島でいかにして調査が実施されていたのかを伺うことができました。沖ノ島祭祀遺跡のこれまでの調査成果に加え、遺跡の状況など図面では確認が難しかったところなどを、貴重な証言と共に再度確認できたことが大きな成果となりました。

岩陰祭祀遺跡

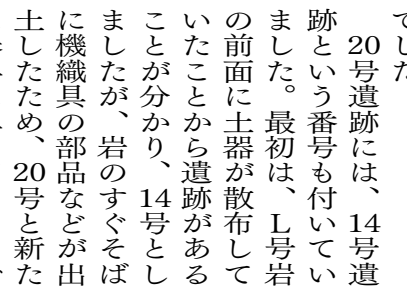


17号遺跡下での説明

表土の落ち葉を払っただけで、金銅製馬具や玉が出土したそうです。有名な金製指輪は、小田さんが見つけた。

7号遺跡からは、岩に向かって右の地面から鎧(よろい)の小札(こざね)

露天祭祀遺跡



17号遺跡下での説明

露天祭祀遺跡を代表する1号遺跡は、現在も土器や滑石製品を見ることが出来る遺跡です。

この遺跡からは、発掘調査時もおびただしい数の遺物が出土し、深々と